



OSAKA JAPAN

..... 国際ロータリー第2660地区 ■吹田江坂ロータリークラブ.....

SUITA ESAKA ROTARY CLUB

CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日 / 1990.2.27
事務所 / 〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場 / 新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日 / 毎週火曜日 12:30~13:30
会長:水谷善博 幹事:延秀恵 会報委員長:内田正

2011年2月8日 第985回例会(第984号)

本日の例会

今週の歌 「それこそロータリー」

卓話 「消防防災」

吹田市危機管理監 山田洋雄様
(速見会員紹介)

次回例会のお知らせ(2月15日)

卓話 「名前」

北山陽一 会員

前回〔2月1日〕例会記録

来客

井上健士君(第9920地区 SUVA)
大前清彦君(吹田)

会長の時間 水谷会長

皆様こんにちは。2月3日は節分です。本来は季節の分れ目である立春、立夏、立秋、立冬の前日のことを言い、年4回ありましたが、室町時代の頃から、立春の前日をさすようになりました。節分の夜は、1年の災いを払うための厄落としとして、「豆まき」をし、「恵方巻き」を食べます。恵方とは、陰陽道でその年の干支によってきまり、歳徳神のいる、最も良い方向を言い、本年は南南東を指します。恵方巻きは、丸かぶり寿司、恵方寿司、招福巻き、幸福巻き、開運巻き寿司等々表現されます。七福神にちなんで「かんぴょう」「きゅうり」「しいたけ」「だし巻」「うなぎ」「でんぶ」など7種類の具を入

出席報告 北村(康) 委員

【2月1日】
在籍会員 41名(内出席規定適用免除者 10名)
出席会員 35名(内出席規定適用免除者 8名)
ホームクラブ出席率 89.74%

1月11日のMUを含む出席率 100%

れて福を巻き込み、太巻にして食べるのが最良とされています。

その食べ方は、巻き寿司を1人1本ずつ準備する。福を巻き込んだ巻き寿司なので包丁で切ると縁が切れ福が逃げてしまう。その年の恵方を向く、本年は南南東に歳徳神がいる。願い事、無病息災、商売繁盛を願いながら黙々と食べることに、しゃべると運が逃げてしまうため、食べ終るまで絶対口をきいてはいけない。今年の2月3日は「男は黙って恵方巻き」で幸福を引き寄せて下さい。

幹事報告 延 幹事

第2組IMが2月5日(土) 14:00から開催されます。
下期会費お忘れの方よろしくお願ひします。

ニコニコ箱

田中(弘)会員 2月に入りました。今後ともよろしくお願ひします。
本日分 3,000円
累計 1,036,000円

関西大学RAC例会出席担当
2月8日 都合により休会
会場:中央体育館 図書資料室
時間:19:00~20:00

私達は他人(ひと)を思いやり 奉仕の理想のもと 地域社会へ貢献するよう 努めます

2月お誕生日

5日 木元良三 会員
12日 大井清 会員
19日 西上博幸 会員
20日 山崎陸治 会員
21日 北山陽一 会員
22日 溝畑寛治 会員
24日 北村雅計 会員

2月ご夫人お誕生日

3日 小笠原 恭子 様

2月結婚記念日

11日 西山俊明 会員

会員増強特別委員会 八橋 委員長

会員増強特別委員会は月1回、事務局にて委員会を開催しておりますがなかなか成果を出せてないのが現状であります。しかしながらこの度会員増強特別委員(13名)の方々々が2月22日の例会に各人1名の例会見学者をピジターとしてご案内するようになりました。会員の皆様には温かくお迎えの程よろしくお願い致します。

卓 話

『日本刀』の話 長島 寛 会員

日本刀は、日本固有の製造法によって作られた刀剣類の総称であり、平安時代末期以降の湾曲した刀を差します。寸法により太刀、刀、脇差、短刀に分類され、広義には剣、薙刀、槍なども入ります。

実は私の父親が3年前に亡くなり、そのあと隠居宅のベッドの下の床下から脇差が見つかりました。私の曾祖父は鳥取県岩美郡の出であり、相当地位の高い武士の次男でありましたが、明治の廃刀令の後に丹後へ住居し、その子である祖父が枕元に脇差を置いて眠っていたのを私が子供の頃のことですが見て記憶しています。また今から50代ほど昔まで遡る系図も鳥取の本家には存在します。

今回見つかった脇差は登録証付きでしたが、少し錆びていましたし、外見も見栄えがしない物でしたから引出に入れて放置していたのですが、懇意にしている神戸そごう美術担当責任者が自宅へ来訪された時にお見せしたところ、「私の能力を超えた相当の代物であり、それに相応しい手入れと処置をした方がよい」と言われました。そこで何をもって相当の代物と判断をするのですか? と尋ねたところ先ず年代物であること、普通は銅製である「はばき」

が銀製であり、鐔の模様も金で描かれていることなどを指摘されました。

話し合いの結果、国宝級の刀も研ぎ日本でも3人の内の1人と言われる関東在住の研ぎ師を紹介していただき研ぎ作業も含めて長期保存のための処置も終わらせることができました。またこの脇差の鑑定では無名ではあるが桃山時代に備前の国で作られた準国宝級と言ってもよい価値あるもののお言葉をいただきました。

以下の話は日本刀について私が急速学んだことの受け売りであります。先ず、刀の部分の名称ですが、細かく言えば33の部分から構成されており、そのうち皆さんも聞かれたことがあるかも、と思われる主要部分を取り上げますと、刀身の地、茎(なかごとと呼ばれる柄の中にある部分)、鐔がけ、刃、刃紋、切っ先、鑢(しのぎ)、はばき、鞘、鯉口、柄、柄巻き、下緒などがあります。また日本刀を作られた時代により分類すると、上古刀、太刀：室町以前、古刀：慶長以前、新刀：慶長以降、新々刀：江戸時代末期、現代刀：明治9年廃刀令以降、昭和刀などと呼ばれています。

次に日本刀の登録についてですが、銃砲刀剣類等取締法により規制されており、都道府県の教育委員会による美術品としての鑑定と登録が必要です。

日本刀の手入れは私も年2回ほど行っていますが、その順序は目釘を外す 柄を外す 和紙で刀身の油を拭き取る 鑑賞する 打ち粉を打つ 和紙で拭き取る 油を塗る 柄をはめる 目釘を打つ 鞘に収める、で終わります。

最後に日本刀から生まれた言葉を紹介しますと、切羽詰まる・真剣・元の鞘に収まる・目抜き通り・そりが合わない・鑢をけずる・付け焼き刃・身から出た錆びなどがあります。

本日は持参した脇差を鑑賞していただきますが、怪我のないよう細心の注意を払っていただくようお願いいたします。

